



The University of Tokyo
Integrated Human Sciences Program
for Cultural Diversity

IHS 教育プロジェクト H「生命のポイエーシスと多文化共生のプラクシス」 S セメスター研修企画

まなび旅・福島 (2019 年)

震災・原発事故から 8 年たった福島県を訪れ、人々の声を聞く旅

2019 年 8 月 3 日 (土) - 4 日 (日)

研修地：福島県飯館村、南相馬市など



案内人：関谷 雄一 先生

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は各地に大きな爪痕を残し、それは現在も癒えることがありません。特に福島では原子力発電所の炉心溶融という未曾有の災害が起こり、爪痕はそこに暮らしてきた人々にも深く及びました。現在も地元を離れ避難生活を余儀なくされている方々が多数います。あのとき、震災に遭遇した方は、どのような気持ちで、どのような経路をたどって避難したのか——。震災から 8 年後の今、文化人類学者の関谷雄一先生とともに福島の地を訪れ、人々の声を聞きます。

主催 東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「多文化共生・統合人間学プログラム (IHS)」教育プロジェクト H「生命のポイエーシスと多文化共生のプラクシス」

応募・問合せ IHS・教育プロジェクト H：project-h@ihs.c.u-tokyo.ac.jp 関谷雄一先生：sekiya@anthro.c.u-tokyo.ac.jp